

(様式 2)

議事録番号

提出 2008 年 2 月 12 日

会合議事録

研究会名：マイクロ・ナノイメージングと生体機能

日 時：2008 年 1 月 18 日 16:00-17:00

場 所：高エネルギー加速器研究機構 4 号館セミナーホール

出席者：(議事録記載者に下線)

会員：伊藤 敦 (東海大)、百生 敦 (東大)、井上敬文 (カネボウ化粧品)、金城康人 (都産業技研)、篠原正和 (神戸大)、関口広美 (産総研)、武田佳彦 (筑波大)、谷 克彦 (リコー)、平野馨一 (PF)、本田捷夫 (千葉大)、水谷治央 (東大)、安本正人 (産総研)、矢田慶治 (東北大、東研)

オブザーバー：大東琢治 (JASRI)、鈴木芳生 (JASRI)、竹内晃久 (JASRI)

計 16 名

議題：

- 1) 今後の研究会活動について
- 2) 結晶干渉計での実験計画について
- 3) 研究会第 2 期申請について

議事内容：

1. 今後の研究会活動について

研究会活動を意味あるものにする鍵として、以下のことが議論された。

- 1) 例えば具体的に空間分解能がどのくらいでどのようなスペックの装置が必要か提案すること。それによって様々の試料を測定できる体制をつくるのが可能になる。
- 2) 研究テーマの種を育てること。それらのテーマを課題申請に先立って研究会で議論や協力できるような組織づくり、及び研究会会合時期の設定を行う。

関連した研究会要望 (慶応大松尾氏より) として、3D を full に再構成する high spec machine が提案された。ただし、鈴木氏 (JASRI) によれば、BL47XU には一台設置されているとのことである。しかし、それで十分とはいえないのでは

ないかという議論がなされた。

また、今後の活動について、マイクロナノトモグラフィー研究会との合同研究会開催などの連携が前回会合に引き続き議論され、全員が賛成であった。

2. 結晶干渉計での実験計画について

結晶干渉計のビームライン設置の今後の計画について、百生氏（東大）より紹介された。結晶干渉計はBL20XUで篠原氏（神戸大）などの成果によって、より大きな視野の必要性が明らかとなっている。現在、BL20B2に八木氏（JASRI）を中心に設置の動きがあり、半年くらいでの立ち上げを予定している。ただし、常設とは限らない。性能は、エネルギー範囲 10-30keV、視野サイズは約 20cm、分解能は 15-20 μm （3次元）である。試料を測定してみたい方は、2008AでR&D、2008Bで一般申請を考えてほしいとのことであった。

3. 研究会第2期申請について

第2期の継続申請については全員の賛成が得られた。百生氏、伊藤を中心に申請案をまとめることとなった。

以上